

思いっきり楽しんでくれた参加者たち



今年も開催 エンジョイセーリングデイ

JSAFレディース委員会が主催するエンジョイセーリングデイが7月11日、神奈川県・葉山新港をベースに開催されました。

写真／濱谷幸江

今年で10回目を迎えたこの試み、曇天ではありましたが雨もなく、強い陽射しもなく、風も強過ぎず、体験乗船会には絶好の日和りでした。参加者は100人近くに達し、昨年よりも参加協力艇が増え、乗りたい人も、乗ってもらいたい船もおおおいに賑わった1日となりました。

参加者の声を聞いてみました。「仕事をリタイアし時間が自由になることもあって、何かを始めたいと思い参加しました。長野県の出身なので海に興味があり、1級免許は取ったのですがヨットは初めて。新聞でこのイベントを知り、所沢から電車に乗って1人で来ました」という男性。乗船した船が70歳台のオーナーによって操船されていることを知り、ヨットをより身近に感じたようです。葉山で行われているシニアを対象とした練習会である「ニッポンセイルトレーニング葉山(NST)」の活動の話を知り、大いに興味を持ったようです。

3人家族のお父さんは、「今日は(小学生)の息子が楽しんでくれました。私はウインドサーフィンをやっているんですが、ウインドは1人でしかできな

いので、息子といっしょに楽しめるものを探していました。ヨットの可能性は大いにありますね」と満足そうでした。

YAHOOで検索していて偶然にこのイベントを見つけたという40代の男性は、「以前からヨットには興味があったのですが、たまたまこのイベントを発見しました。水泳やランニングをやっているのですが、ヨットって面白そうですね」と新たな楽しみを発見したようでした。この男性もNSTに興味津々。

船酔いで早々に船を下りてしまった小学2年生の男の子もいました。しかし、「帰りに乗ったモーターボートが楽しかった。風が気持ちよくて、ずっと乗っていたかった！」と船そのものには興味を持ってくれたようで一安心。パーティ会場では元気に走り回っていました。

また、「最初は船が揺れるので落ちつかなかった。しかし、1時間もすると慣れて、最後は風を楽しめるようにはなりました」という女性は、「次回もチャンスがあったらまた乗りたい」と言ってくれました。リピーターを増やすのも、こういったイベントでは

大切です。

一方、船側としては、「今日は若い人たちに乗ってもらい、いろいろ経験してもらいました。興味をもたれたら是非、メンバーになり、チームの戦力になってほしい。来年といわず、来週もまた来てください！」(O&Sの小林巧さん)といったところが代表的な感想のようです。どの船も、クルー候補生を確保するために、エンジョイセーリングデイを積極的に利用していました。

セーリング後のパーティでは同じ船に乗船された方々がお互いにメルアドを交換し、写真を撮り合ったりで、すぐに仲間になられたようで、海の親睦の場としても活用されたようです。来年、11回目を開催する予定。是非、ご参加ください！

なお、このイベントは日本財団の助成金を受け、ヤマザキナビスコ株式会社、ウイダーinゼリー(森永製菓株式会社)、ヘリーハンセン(ゴールドウィン株式会社)、株式会社ノースセールジャパン、ブティックガルボの協力を得て実施しました。



出航前にスタッフと参加者が全員集合